【安来市】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

主体的・対話的深い学びの実現に向け、安来市学力向上の取組を「授業改善」を重点に置く。児童生徒が情報を主体的に捉え、何が重要かを主体的に考え、他者と協働し、新たな価値を創造するために必要な情報活用能力を育成する。そのために、1人1台端末をはじめとするICT環境を積極的に活用し、全ての子供たちの可能性を引き出す「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させる。

2. GIGA第1期の総括

安来市は、令和2年度に児童生徒の1人1台端末及び通信ネットワーク基盤の整備を行い、児童生徒が日常的に必要な学びの文房具の一つとしてデジタル教科書などの各種デジタルツールを活用できる環境を構築した。

一方、導入当初は、学校や教師によって一人一台端末の活用状況に差が見られた。令和4年から6年にかけて「安来市ICT活用教育研究指定事業」を設けた。そこで、指定校での公開授業をとおして授業におけるICT活用の実際について研修の機会を提供したことで、市内各校での活用状況に改善がみられる。

3. 1人1台端末の利活用方策

1人1台端末の利用により「個別最適な学び」の充実を図る。その際に、ICTを活用し学習履歴を利活用することで、児童生徒一人一人の特性や学習進度に応じた指導の個別化を図るとともに、児童生徒の興味・関心や意欲に応じた学習の機会を提供する学習の個性化を目指す。

しかし、この「個別最適な学び」が孤立した学びに陥らないよう、探究的な学習や体験活動を通じ、ICTを活用した多様な他者と協働しながら学ぶ「協働的な学び」も同様に充実を図る。その際、同一学年・学級はもとより、ICTの活用による空間的・時間的制約を超えた他の学校の子ども等との学び合いも考えていく。

これらを一体的に進めていくためには、教職員の指導力の向上とともに、引き続き、端末、デジタル教科書、デジタルツール等の整備、及び通信ネットワーク基盤の安定稼働を維持していくことが重要である。